

【独文学専攻】

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

独文学専攻では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. ドイツ語運用能力の育成に当たっては、総合教育課程と専門教育課程を通し、以下の一貫したカリキュラムが組まれている。
文学部入学者は第1学年・第2学年を通じ、原則として外国語2語種を必修外国語科目として履修する。このうちドイツ語履修者は基礎的言語運用能力を体得するため、第1学年週3回、第2学年週2回ドイツ語の授業を受講する。その際、第1学年次の週3回授業のうち1回は必ずドイツ語母語話者がこれを担当することとしている。この2年間の課程で修得した言語運用能力は、各専攻における専門文献読解等の専門的学修ならびに異文化コミュニケーションの手段として活用される。
独文学専攻の専門教育課程においては、上記文学部共通語学カリキュラムを通じて獲得された技能をさらに発展させ、より高度な言語運用能力を養成するため、第2学年次以降、「読解」、「文章作成」、「聴解・口頭表現」にそれぞれ重点を置いた科目群をレベル別に多数設置している。すべて少人数による演習形式の授業であり、かつドイツ語母語話者の担当率も高い。これらの科目を段階的に継続して学修することにより、言語運用の四技能がバランス良く修得できるよう配慮している。
2. ドイツ語学、ドイツ文学、ドイツ文化学の領域に関しても、3年間の専門教育課程を通じ、段階的に専門的知識を深めることができるようカリキュラム設計を行っている。第2学年においては、ドイツ文学史の概括的知識や文学テキスト読解のストラテジー、あるいはドイツ語学・文学・文化研究のアカデミック・リテラシーを修得する科目群を配置し、第3学年・第4学年においては、ドイツ言語学、中世ドイツ文学・文化、近代・現代ドイツ文学、近代・現代ドイツ文化、近・現代ドイツ思想、ドイツ演劇学、メディア学等に関する多彩な科目群を、講義形式・演習形式共に多数設置し、学生が個々の関心ないし問題意識に応じて学修を設計できるよう配慮している。また、これら専門の演習科目・講義科目の一部をドイツ語母語話者である専任教員・有期教員・非常勤教員の担当とすることで、ドイツ語によるプレゼンテーションや議論の実践的学習を可能としており、ドイツ語圏の大学への留学を希望する学生にとって格好の訓練の場となっている。
3. 専門教育課程における学修の成果を卒業論文の形で結実させるため、第3学年・第4学年に研究会を設置する。学生は第3学年において複数の研究会を履修し、第4学年においてはそのなかから、卒業論文指導教員担当の研究会を選び、引き続き履修する。これにより、学生は卒論指導教員の同科目を4学期継続して履修しつつ、卒業論文の構想から完成に至るまでの指導を受けることになる。

4. 異なる環境を通じて高度な異文化リテラシーを身につけるために、慶應義塾大学国際センターによって提供される留学プログラム、さらには学内外の各種留学制度などを活用した海外の大学への短期（1年間）留学を推奨する。海外の大学への正規留学によって取得した単位を、単位数を限って卒業要件に含めることを認める。
5. 海外への留学をはじめとし、より柔軟な履修を行えるように、全ての科目は半期科目として開講し、また留学期間を慶應義塾大学文学部在籍期間に算入することによって、留学期間を含めて4年間で学士課程を修了できるよう配慮している。
6. ドイツ語学・文学、ドイツ文化に限定されぬ、広い領域の知識と教養を身につけることができるよう、慶應義塾大学文学部設置全専攻共通科目、他専攻設置専門教育科目、また本塾大学の他学部および附属研究所の設置科目を卒業要件として履修することを、単位数を限って認める。